

日本のお風呂っていいな！11月26日は「いい風呂の日」 牛乳石鹼 presents いいふろまつり 2020



牛乳石鹼共進社株式会社（本社：大阪府大阪市城東区以下牛乳石鹼）は、2020年11月26日（木）の「いい風呂の日」を記念して「いいふろまつり2020」を開催いたします。毎年リアルでのイベントでしたが、今年はコロナの状況を受け、オンラインにて開催致します。

■11月26日は「いい風呂の日」!!【1126=イイフロ（いい風呂）】

「いい風呂の日」は、11月26日を【1126=イイフロ（いい風呂）】とし、日本浴用剤工業会が日本記念日協会により正式に登録、認定された記念日です。健康を育み心のリラックスを与えてくれる空間、そして家族のコミュニケーションの場としても重要なお風呂。日本の素晴らしい文化であるお風呂の価値を再認識する1日です。

■いいふろまつり2020：内容一部紹介



◎「ねづっちさん」による「お風呂謎かけ」

産経新聞社様にご協力いただいた「お風呂川柳大賞」（10月31日まで一般募集。）の優秀作品や「いい風呂 of the Year」の発表をはじめ、謎かけ名人「ねづっちさん」による「お風呂謎かけ」も行われます。

◎牛乳石鹼オリジナル「銭湯寄席」・「銭湯今昔トークセッション」

関西在住・新進気鋭の落語家による「牛乳石鹼オリジナル銭湯寄席」を制作・披露いただき伝統文化とのコラボレーションにより、銭湯文化の発信を図ります。また、銭湯寄席を披露いただいた落語家と共に、高円寺の銭湯・小杉湯の番頭兼イラストレーター「塩谷歩波」及び雑誌『Meets Regional』元・編集長 江 弘毅氏の対談を実現。『銭湯の今昔』をテーマに文化度の高いトークセッションを展開し、「コロナ禍における銭湯」にもフィーチャーした内容とすることで、2020年ならではのコンテンツに。

■いいふろまつり2020：開催情報

開催日時：2020年11月26日（木）19:00～20:00頃 《参加料：無料》

特設サイト：<https://www.cow-soap.co.jp/20201126/> 終了後は、特設サイトにてアーカイブとして配信（1年間程度）

<報道関係者様>

牛乳石鹼共進社株式会社
コーポレートコミュニケーション室 田原

【TEL】 06-6939-1454

【FAX】 06-6939-8011

【E-MAIL】 webadmin2@cow-soap.co.jp

<お客様>

牛乳石鹼共進社株式会社 お客様相談室

【TEL】 06-6939-2080

【WEB】 <https://www.cow-soap.co.jp/corporate-info/customer-center/select/>

<受付時間> TEL：10時～16時（土日祝、弊社休業日を除く）

FAX・E-MAIL・WEB：随時受付。但し、返信については弊社営業時間中となります。ご了承ください。

■参考資料

【イベント内容】

- ・「お風呂川柳大賞」優秀作品発表
- ・謎かけ名人「ねづっち」による「お風呂謎かけ」
- ・「いいふろ・オブ・ザ・イヤー2020」発表
- ・牛乳石鹸オリジナル「銭湯寄席」
- ・「銭湯今昔トークセッション」

【司会進行】テリー植田

【出演者プロフィール】

■登壇：ねづっち

1997年に芸人デビュー。2010年、「ととのいました！」の掛け声が続いて披露するなぞかけで注目を集める。「ととのいました！」は、「2010年新語・流行語大賞」のTOP10入りを果たす。テレビ、ラジオ、寄席、ライブ、YouTubeなど幅広いジャンルで精力的に活動中。

■登壇：テリー植田（てりー・うえだ）

奈良県桜井市生まれ。イベントプロデューサーとして企業、自治体などのPRイベントの企画、司会、プロデュースを行う。そうめん研究家ソーメン二郎としてのそうめん復権活動も行なっている。

■登壇：桂治門（かつら・じもん）

兵庫県出身。教育免許を取るために教育実習まで行っていたが、師匠である桂小春団治の落語を聴き大変な感銘を受け入門を志願。2008年桂小春団治に入門。桃山学院大学経済学部卒。

■創作：桂福丸（かつら・ふくまる）

神戸市出身。大学卒業後は英語落語を学びアメリカでも公演を行う。

2007年桂福団治に入門。福丸の名付け親は作家の藤本義一氏である。2017年文化庁芸術祭大衆芸能部門新人賞。

※「銭湯今昔トークセッション」

■塩谷歩波（えんや・ほなみ）

高円寺の銭湯・小杉湯の番頭兼イラストレーター。早稲田大学大学院（建築）を修了後、設計事務所に勤めるも体調を崩す。休職中に通った銭湯に救われ、「銭湯図解」をSNS上で発表。評判を呼び、小杉湯の番頭に。

■江 弘毅（こう・ひろき）

岸和田市出身。編集者／著述家。89年京阪神の街的雑誌「ミーツ・リージョナル」を立ち上げ、12年編集長をつとめる。昭和の下町の育ちゆえ、幼少期は銭湯通いだっただ。そのあたりは近著『K氏の大阪弁ブンガク論』（ミシマ社）に書いている。